

カービュー マーケットウォッチ (2009年10月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体の前年同月比が2カ月連続のプラス！

09年9月順位	09年8月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	31,758
2	(2)	→	フィット	ホンダ	17,241
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	12,731
4	(5)	↑	パッソ	トヨタ	10,792
5	(4)	↓	インサイト	ホンダ	10,289
6	(7)	↑	フリード	ホンダ	9,123
7	(11)	↑	ノート	日産	9,091
8	(6)	↓	セレナ	日産	8,827
9	(14)	↑	キューブ	日産	7,632
10	(12)	↑	ウィッシュ	トヨタ	7,468
11	(13)	↑	ティーダ	日産	7,218
12	(8)	↓	ヴォクシー	トヨタ	7,199
13	(9)	↓	デミオ	マツダ	6,984
14	(15)	↑	エスティマ	トヨタ	6,215
15	(10)	↓	カローラ	トヨタ	5,878
16	(19)	↑	ヴェルファイア	トヨタ	5,614
17	(16)	↓	ノア	トヨタ	5,454
18	(17)	↓	アクセラ	マツダ	5,206
19	(21)	↑	エクストレイル	日産	4,995
20	(18)	↓	スイフト	スズキ	4,674

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体の前年同月比が2カ月連続のプラス！ ただ軽乗用車と海外メーカー製乗用車は前年割れが続く

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した9月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽乗用車を含め、国内で販売された乗用車全体では41万3972台で、前年同月比104.2%と2カ月連続で前年を上回った。特に3ナンバーの普通乗用車は13万7451台で前年同月比114.2%と2ケタの伸びとなり、これで3カ月連続のプラス。5ナンバーの小型乗用車も15万6778台で、同105.1%と2カ月連続のプラスだが、伸び率では3ナンバー車のほうが上回っている。もちろんこれは、3ナンバーの「トヨタ プリウス」が前年同月比441.5%となる3万1758台も売れたことが主な要因だが、ここへきて、「トヨタ エスティマ」や「日産 セレナハイウェイスター（3ナンバー登録車）」といった3ナンバークラスのミニバンが復調しているのも見逃せない。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車は27万4335台で、前年同月比111.2%（日産デュアリス輸入分含む）と3カ月連続のプラス。一方、軽乗用車が11万9743台で、前年同月比93.7%、海外メーカー製輸入車（乗用車のみ）も1万9220台で、前年同月比86.7%と依然として前年割れ（軽乗用車は10カ月連続、海外メーカー製輸入車は17カ月連続）が続いているが、その落ち込み分を国産乗用車がカバーしている状況だ。とはいえ、エコカー減税や新車補助金制度が国産乗用車に対して有利な一面があるだけに、来年以降、これがどう影響するのか注視したいところだ。

月間ランキングでは、「プリウス」「ホンダ フィット」「トヨタ ヴィッツ」のトップ3に変動はないが、「トヨタ カローラ（アクシオ、フィールダー、ルミオンの合計）」が15位とトップ10圏外に脱落。代わりに「日産 ノート」「キューブ」が前月の11位、14位からトップ10入りしている。

前月、日本メーカー製輸入車を含めた全体で前年を上回った輸入車は、海外メーカー製が伸び悩んだことで9月は1万9914台、前年同月比87.4%にとどまった。海外メーカーブランド別乗用車ランキングでは、VW（フォルクスワーゲン）が12カ月連続トップになったのをはじめ、メルセデス・ベンツ、BMW（ミニを除く）、アウディ、ミニのトップ5に変動なし。ただしVW、アウディ、ミニは前年を上回ったが、メルセデス・ベンツ、BMWは前年同月比78.7%、74.4%と厳しい状況が続いている。

■ココも気になる！ その1

まずはハイブリッドカー攻勢で復調を目指すトヨタ

9月は貨物車、軽自動車などを含めたクルマ販売全体で14カ月ぶりに前年同月比100.2%と前年を上回り、深刻な低迷期を脱しつつあるが、1~9月の前年同期比は84.5%。エコカー減税や新車購入補助金制度が始まった4月からの2009年度上半期で見ても、前年同期比90.0%と前年割れが続いている。

そんな状況下では、2008年に販売、生産とも世界ナンバー1の自動車メーカーとなったトヨタも、国内乗用車市場では苦戦。レクサスを含め、前年同月比こそ2カ月連続のプラスだが、1~9月の前年同期比は84.4%にとどまっている。さらに世界市場でも昨年の897万台に対し、今年は730万台程度になる見通しだ。ただ「プリウス」をはじめとするハイブリッドカーは絶好調で、今年8月末時点でトヨタのハイブリッドカー販売累計が世界で200万台を突破。国内でもすでに納期が来年5月下旬以降となるプリウスはもちろん、今年投入した「レクサスRX450h」は累計で4371台（月平均約486台）、「HS250h」も2140台（月平均約713台）と、いずれも月間販売目標250台、500台を上回る売れ行きだ。さらに今月発売予定の新型ハイブリッド上級セダン、SAIも今年度末までに3万7000台程度の受注を見込んでおり、トヨタはこの苦境をハイブリッドカー攻勢で切り抜ける態勢だ。

また今年中に発売予定のプリウスのプラグインハイブリッドをはじめ、インドやブラジル、中国などの新興国向けの1リッター級戦略小型車や、東京モーターショーで公開されるスポーツFRなど、多角的な車種展開を計画している。世界ナンバー1の座にあぐらをかくことのないトヨタの“やる気”に今後も期待したい。

■ココも気になる！ その2

低迷する輸入車市場で快走を続けるアウディに注目

減少傾向に歯止めがかからない輸入車市場。牽引役のVW、メルセデス・ベンツ、BMWも1~9月の前年同期比は82.2%、71.8%、72.5%と2ケタのマイナスが続いている。しかし同じドイツメーカーでもアウディは別格。9月は2117台で、前年同月比は108.6%と過去2番目に多い台数を記録。海外メーカー製輸入車全体で前年同期比78.0%と低調の中、アウディは累計でも1万1555台で、前年同期比98.3%とほぼ昨年レベルで推移している。これにより海外メーカー製輸入車市場の市場シェアは昨年の7.8%から9.8%に上昇。まだ3位BMWに約9000台の差はあるが、完全に第4の輸入車ブランドとして定着した。

車種別では「A4シリーズ」が今年の累計で4837台、前年同期比108.6%。「A3シリーズ」も3097台で、同114.4%と好調。さらに「A5カブリオレ」、「Q5」、「Q7」といったニューモデルの積極的な投入でも成功しているようだ。

さらにアウディは2010年度燃費基準達成車を輸入車最多となる22モデルをラインナップするなど環境性能をアピールしているが、10月から12月末まで、A3やA4など全15モデルを対象に“プレミアムエコサポートキャンペーン”を実施。これは対象モデルを成約した場合、アウディからの購入支援ということで1台あたり20万円のサポートが受けられるもので、2010年度燃費基準達成車で、車歴13年超の車両の廃車を伴えば、新車購入補助金制度の25万円と併せて、45万円もの購入資金補助が得られる仕組み。こうしたアウディの拡販施策が冷え込んだ輸入車市場の起爆剤となるのか、要チェックだ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報担当 (pr@carview.co.jp)

tel: 03-5859-6158 fax: 03-5859-6180
